

【技術・家庭（家庭分野）・中1・「自立した消費者となるために」】①

題材の目標

- ・契約の仕組みや支払い方法の特徴を理解するとともに、計画的な金銭管理の必要性を理解し、よりよい消費者としての自覚ある行動を考えることができる。
- ・自分の生活や消費生活における課題を設定し、解決策を考えることができる。
- ・これまでの消費生活を振り返って改善し、生活を工夫し創造すし、自立した消費者となるために実践しようとする。

ICT活用のポイント

- ・多様な支払い方法に応じた計画的な金銭管理の方法を考えさせるために、学習支援ソフトを用いて意見を共有する。

本時のめあてを確認する

模擬家族の購入する物の優先順位と支払い方法について、模擬家族の立場になって考える

各自で考えた意見を写真に撮り、タブレットを用いて話し合う

本時を振り返り、気づいたことや分かったことをタブレットに入力して提出する

事例の概要

- めあてを確認する段階で、これまで表計算ソフトにまとめた振り返りを返却し、これまでの学習を確認しながら、主体的な学びとなるめあての設定につなげる。
- 模擬家族の現状から購入する物の優先順位をワークシートにまとめ、タブレットで撮影したものを学習支援ソフトを使って、班ごとに考えを共有する。
- ワークシートを共有し、それぞれのワークシートに対しての考えを付箋機能を使って添付し、金銭管理のアドバイスとして蓄積していく。
- 本時の振り返りを表計算ソフトにまとめ、次回の学習に生かせるようにする。

【事例におけるICT活用の場面①】

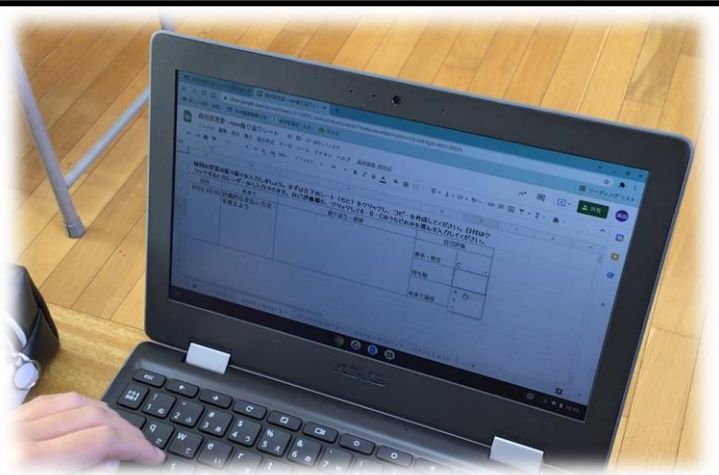
- ワークシートを撮影し、クラスで共有する。



- 共有したワークシートについて、付箋機能を使って班のメンバーから意見を書いてもらう。

【事例におけるICT活用の場面②】

- 振り返りを端末で行い、いつでもこれまでの学習を振り返ることができるようにする。



○活用場面①

模擬家族の購入する物資の優先順位や支払い方法を考え、ワークシートにまとめたものを端末で撮影し、学習支援ソフト使って班で共有する。他の生徒の考え方を共有することで、多様な支払い方法に応じた計画的な金銭管理方法について考えることにつながった。

○活用場面②

本時の振り返りを表計算ソフトを使って行い、端末に提出をさせる。単位時間ごとの学びを蓄積することで、生徒が題材を通した学びを意識しながら学習に取り組む様子が見られた。